

# 注目の学校

初芝富田林

## 「令和を代表する学校づくり」が始動！ 2021年度4月にはグローバル教育と 受験指導を両立させる新コースを設置

2018年度、超進学校化宣言のもと、抜本的な教育改革をスタートさせた初芝富田林。当初から掲げてきたミッションの一つ、「大阪府を代表する進学校としての復活」については、改革初年度からの大幅な大学合格実績向上をもって、多岐にわたる取り組みの成果を実証する形となりました。さらなる飛躍を目指し、現在もカリキュラムの進化を推し進めています。

そしてもう一つのミッションは、「グローバル」をキーワードとする「新時代（令和）」を代表する学校づくり。その一環として2021年度から『G（グローバル）特進探究コース』（G特）を新設します。これにより中高とも、難関国立大学合格を目指す『S特進探究』（S特）、中堅国立大学・有名私立大学を目標とする『特進探究』（特進）、G特進探究の3コース制となります。特筆すべきは、『G特』が、一般的なグローバル系のコースと

は一線を画すカリキュラムを導入している点です。国立大学への進学を目指すコースとして位置づけられており、『S特』と同様に5教科7科目をしっかり学ぶ、文理に対応したカリキュラムを実践します。

『S特』との大きな違いは、英語教育に力点を置き、グローバル社会においてコミュニケーションツールとして通用する、使える英語力と、『大学入学共通テスト』や国立大学二次試験に合格できる、学力としての英語力の両方を養う点にあります。5教科については『S特』と同等の学力を身につけることができ、かつ、高い英語力を活かすことにより進路の選択肢が広げられるコースと言えるでしょう（平井正朗校長）

英語で他教科を学ぶ「イマージョン教育」を実施します。朝夕のホームルームをはじめ、日常においてもできるだけ英語に触れ、英語を話す機会を増やします。

並行して、自宅でも英語学習に取り組みめるアダプティブ・ラーニング（ICTによる個別最適学習）の定着にも注力します。また、従来から放課後に開講している『ディベート講座』など各種講座のさらなる充実で、語学に関する「学びの選択」の幅を広げます。加えて中3修学旅行「ロサンゼルス研修」など全員参加のプログラムや、『立命館アジア太平洋大学（APU）国内留学』『オックスフォード大学体験学習』といった国内外の希望者対象プログラムについては、さらにバージョンアップも検討していくとのこと。



2021年度に新設する「グローバル特進探究コース」について語る平井正朗校長。

# 学校生活のあらゆる場面で英語を実践する『G特進探究コース』

## 『放課後講座』や国内外のプログラムをバリエーション豊富に展開

『G特』では、放課後を最大限に活用し、+αの英語教育を実践します。英語で会話や議論をする『English Room』を利用できるほか、希望者を対象に『ディベート講座』『TOEIC講座』などを開講。

校外で展開するプログラムは、全員参加のものだけでも、『イングリッシュ・キャンプ』（中1・中2）、『ロサンゼルス研修』（中3）、『オーストラリア研修』（高2）、オックスフォード大学やケンブリッジ大学の留学生と交流する『グローバルリーダーズ・プログラム』（高2）と多彩です。立命館大学大阪いばらきキャンパスを拠点とするグローバル教養学部との連携を進めるなど、これまで以上に、国際人としての土台を築くための取り組みを積極的に展開していきます。



## 英語重視型の『特色入試』を導入

『G特』の新設に伴い、中学入試も進化させます。2021年度入試から、自己推薦型の『フロンティア入試』を『特色入試』に名称変更し、『S特』『特進』の志望者を対象としたものと、英検4級合格などを出願資格とする『G特』志望者対象の“英語重視型入試”を実施します。英語重視型の面接では、簡単な英会話も取り入れる予定です。

## 4技能5領域を着実に伸ばし大学入試に対応する英語力を確立

『G特』の到達目標は、中学卒業段階で国際基準の英語力評価『CEFR（セファール）』のA2レベル以上、高校卒業段階でB1レベル以上。

ネイティブ教員と日本人教員によるチームティーチングによる授業などでは、『大学入学共通テスト』や国立大学二次試験に合格できる英語力の養成を目指し、4技能5領域「聞く」「話す（会話・発表）」「読む」「書く」をバランスよく伸ばすことに重点を置きます。「英語力を伸ばすためには、英語に触れる時間を一定量以上確保することが必要です。ICT機器を活用したアダプティブ・ラーニングを取り入れることで、主体的・意欲的に学べる環境をつくっていかねばと考えています」（平井校長）



## ネイティブ教員との交流を通じて日常的に英語に触れる

『G特』の特徴の一つは、英語の授業以外の時間にも、気軽に英語に触れることです。中3の『ロサンゼルス研修』では、1家庭約2名でホームステイを体験するほか、スタンフォード大学やシリコンバレーを訪れ、学生との交流も行います。それらを積極的に楽しむことができれば、英語力の向上だけにとどまらず、学びや将来に対する意識の変化など、得られるものも多岐にわたります。現地でも臆ることなく英語を話せるように、普段からネイティブ教員とのちょっとした会話を楽しむなど、日常の中で小さな体験を積み重ねていくことを大切にしていきます。

